

保母の職分の深さ

倉橋惣三

近時、保母の責任の重大に擴大に就ては、前號に述べた通りである。これは、決戦下の必然であり、必須であり、保母諸君の自覺を要請せられることが大きい。

しかも、同時に、保母の職分の深さも亦忘れてはならない。責任の重大に緊張し、責任の擴大に活躍することの大なれば大なる程、自ら常に強く守つてゐなければならぬことは、眞の保育者としての職分の深さである。緊張し活躍しに自ら飽和して、その職分の深さをまぎらされる危険もないといへない。すなはち、この點切に注意し警戒を要する。

幼児の生活の世話は、保母の一つの重要任務である。多忙なる母に代つて幼児寢食の保護の周到を期するは、保育の急務である。これを怠つて今日の保育者は、その職分を完ふするといへない。しかし、苟も幼児教育者たる保母の職分は、それで終れりといへないのである。もつと深い職分が、それらの方面と共に常に要求せられてゐる。保育は教育だからである。従つて又、保母、すなはち幼児教育者の

職分には、教育としての深さが常に賤存してゐるのである。多忙なる母は、わが子のために盡し足らざるを悲しむ。故にこそ、何びきかによつて、それが補はれることを求めもする。しかも、その悲しむところも、その求めるところも、たゞわが子の生活の管理と保護に就てのみである。誰れが言ひ得やう。母が親としてわが子のために眞に求むるところは、もつと深いのである。すなはち、わが子のために眞の幼児教育を與へ難いのを悲しみ、又それをこそ求めるのである。或は、母達の中には、その深さを自識してゐないものもあるかも知れない。しかし、自識の有無に拘らず、親の心そのものは、必ずや教育的に深いものである。況してや、國家としての親心は、最も明確なる意識を以て教育の深さを具へなければならぬ。その、幼児に對する、國家の教育の心の深さを職分とするものが保母である。

幼児教育の深さは、先づ、心身一體の確固たる信念の下に、幼児の心を育てることである。幼児の心を眞に育てる

ためには、幼児の心の深い根に觸れることなしには出來ない。但これは、幼児の身の養護の大切さを聊かも輕くするものではない。身を育てるこゝによつてこそ心を育て得るこゝを知るに共に、身を育てるに止まつてゐないこゝを知るのである。

幼児教育の深さは、次に、幼児の個を凝視し、個に觸れるこゝによつてのみ、教育の誤りなき効果を擧げ得るこゝである。これは生活の集團性を輕視するのでもなく、教育の集團的方法を知らないこゝでもない。教育方法の基礎として、個の素質、個の環境、個の習癖等に徹するこゝの細密、精確を期するのである。

幼児教育意思の深さは、更に、教育意志の深さでなければならぬ。教育の國家性、教育の人格性、教育の文化性、いづれもその深さ測り難いのであり、自ら己に深めて限らないのである。勿論その到達は容易く望み得ない。しかしせめてもその深さを深思するこゝなしには教育者たり得ない。而して、教育者たるこゝなしには一日も保母たり得ない。

決戦下、急務は急務に急ぎ、切迫は切迫に迫つて、悠々たる理念と理想への沈潜を許されないのは素よりである。而して、如何んの感謝を以て幼児のこゝに走り趁き、又、

如何んの切實を以て幼児等を擁し抱くかは、すべての保母のもつ現實であり、現實を離れて保母の活動の存在はない。しかも、保母といふ人、その人の職分は常に、現實と共に教育の本義を離れるこゝは出來ない。その幾分を實現し得るかは、時の事情の條件に従はざるを得ないにしても職分の自覺からは寸刻も離れるこゝは出來ない。それは保母の職分が現實の直視から離れるこゝの出來得ないのと同じであつて、一層深いものである。事は保育に關係するゆゑに保母なのではない。保母がその職分の深さの自覺を以て従事するこゝが保育なのである。このこゝは、保母自らよく知るこゝであり、自ら任ずるこゝでもある。保母諸君は、その責任の重大を擴大の中に、その職分の深さを、今日ほゞ痛感するこゝはないであらう。

○お願ひ

○本會へ振替にて御送金の場合、振替料金拾錢を別に御加算下さるやう度々申し上げましたが、未だ御加算のない方が多くございます。この場合料金は、御送金下さつた會費の中より申し受けて居ります。

○従來特別行爲税はいたゞいて居りませんでした。この四月から特別行爲税相當額を申し受けることに致しました。

○又送料が、この四月より武錢になりましたから之も申し受けることに致しました。以上御承下さい。

昭和十九年六月 日本幼稚園協會事務係り